

来た・見た・撮った

金環日食を視るため東京へGO！ 移動作戦は大成功！

お天気きちがい 津田 剛

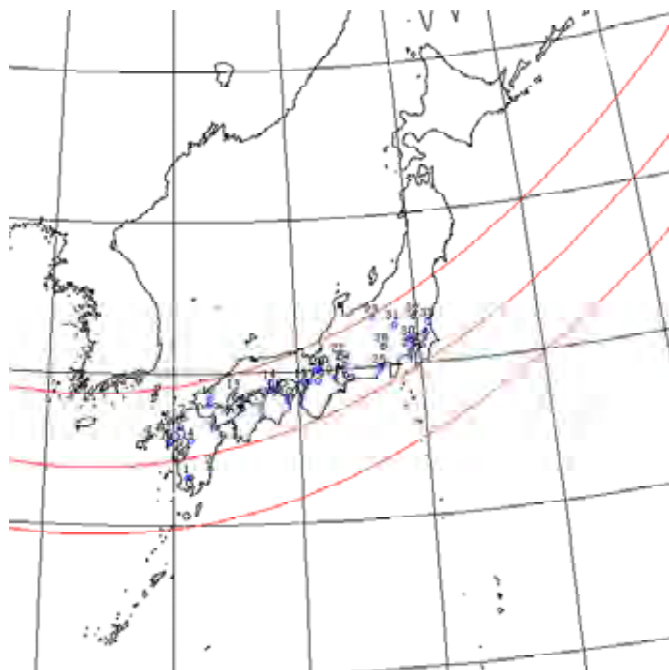
2012年5月21日をどれほど待ち望んでいたことか。私はこの日に日食があるのを、かなり以前から知っていた。問題は天気。それは私が高校生の頃と思う。日本での20世紀最後の皆既日食が北海道の網走で見られたときである。

大分で日食が見られる2012年にはきっと見ようと思っていたからである。雑誌に記載があったもので、当時のものは大分市で見られるかどうかは、はっきり覚えていない。しかし間違い無く大分県の上空を通過していた。

さて話は変わるが巷では932年振りに3大都市圏で見られる金環日食という。

早速、日食観測プログラムのHPを見る。すると1080年12月14日に起こっていることがわかった。

なるほど今回のそれと良く似ている。大分県はおろか九州全土で見られたようだ。1080年とはどんな年なのか？白河天皇の院政が始まる僅か前である。



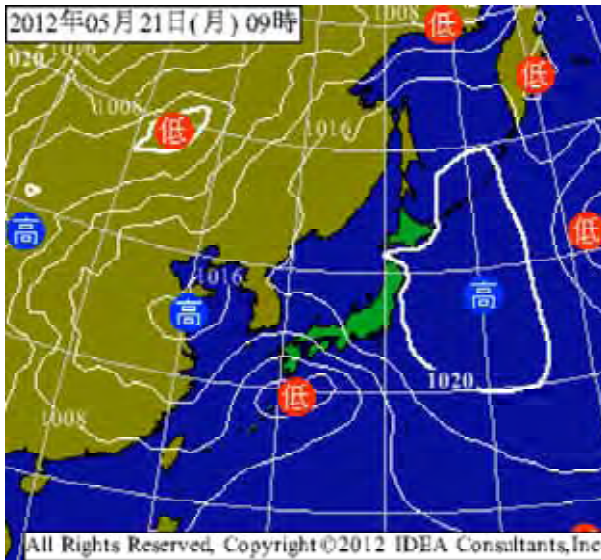
日食観測プログラムHPのより1080年の金環日食。

上図を見れば今回のそれとよく似ていることがわかる。どうしても視たいというのが本心であるが、問題は天気である。そこで過去50年間の天気を調べたら、午前9時の時点では、晴れは18回のみだった。日食の1週間前になると私は気象庁のHPに夢中になった。週間天気予報と予想天気図(他のHP)が載るからである。気象予報士の先生の話によると、今の週間天気予報の精度は上がっているという。ただ天気の傾向としては、ほぼ合っているのだが高気圧や低気圧のスピードが当初より変化してしまい、ズレが生じる。さらに今回の日食は本州～九州まで続いているので、天気の良いところを見て、自由に移動出来るという利点がある。大分での日食観測はダメだという結論を出した私は東京へ行くことにした。つまり日本列島を自由に晴れそうな所の移動を考え

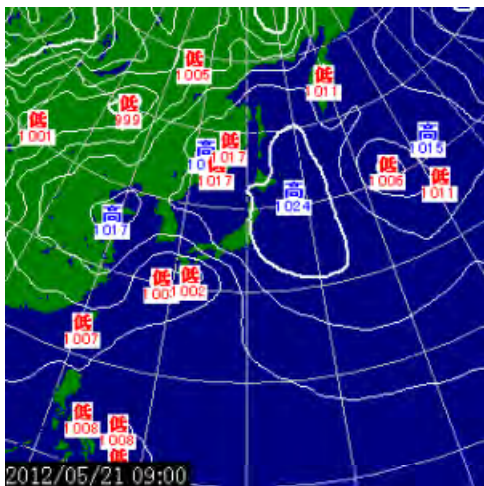
ることにした。

ここで予想天気図を示す。

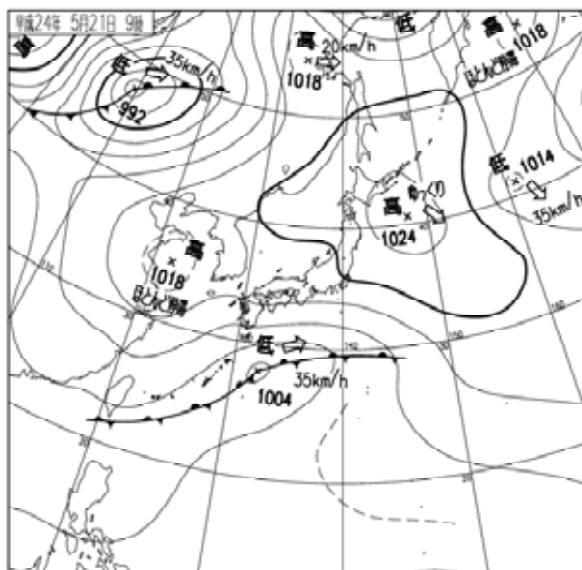
16日に発表された21日の予想天気図。



バイオウエザーのホームページより
低気圧が屋久島付近にある。
余り良い天気にはなりそうもない。



これはサニー・スポットのHPの予想天気図
上のと大差無い。



気象庁の当日9時の天気図。
予想天気図と全般的に大差ない。
南海上の低気圧が邪魔。
東京付近は高気圧の背後で大分よりましと思われる。予想天気図の精度は高い。
この南海上の低気圧から湿った北東風が大分県の南東の斜面に当たって雨を降らすだろう。
気象庁HPより



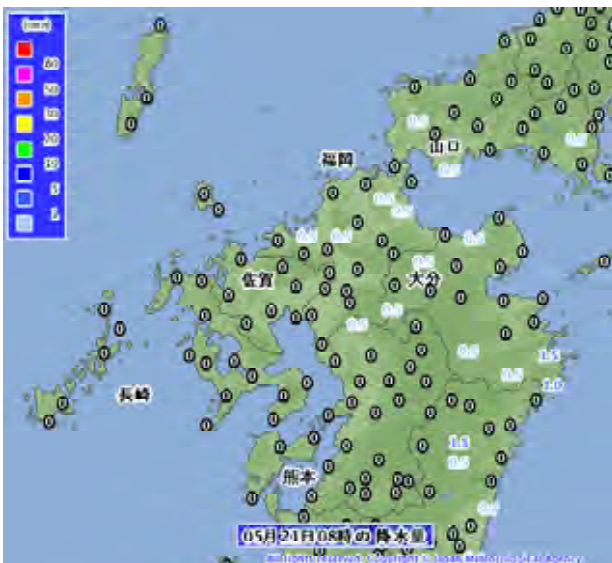
金環日食当時の赤外衛星画像。関東南部まで雲がかかっている。

九州は全域で雲が掛かっている。
 関東は南部ほど雲が厚く天気が悪い。
 気象庁HPより



金環日食当時の日照時間を示す。
 赤い所は晴れていると考えて良い。
 関東北部は天気が良い。関東南部は
 良くない。九州や四国は日照が無
 い。中国、近畿、から東はだいたい
 晴れている様だ。青い所は日照が無
 く晴れてないと考える。

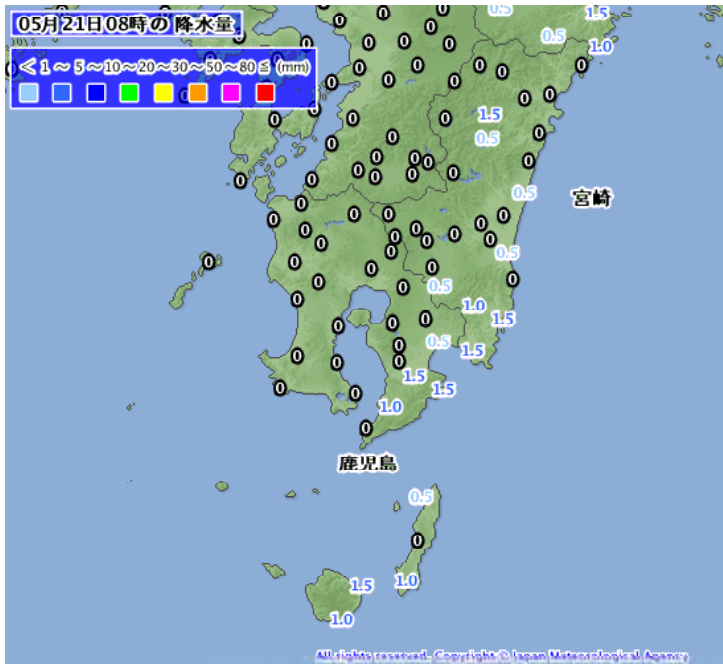
気象庁HPより



アメダスの雨量。

佐伯をはじめ東海岸側は所々雨。
 雨は東側に多い。低気圧からの湿
 った南東風の影響がでている。

気象庁HPより



一番金環日食に良いところが、南九州の東海岸側は雨が降っている場所が多い。ここも東海岸側に多い。低気圧からの湿った南東風の影響がでている。気象庁HPより

さてなぜ東京か？ それは過去50年間の5月21日の東京の天気を調べたら35/50で大分のそれは18/50で明らかに差があったので大分+東京の連合軍で勝負しようと考えたからである。どちらが見られるだろうと思った。大分で見られるなら東京まで行きたくない。大分がこの時期悪いのは「梅雨の走り」の時期にあるせいであろう。なぜ東京か。それはスカイツリーの開業前日で隅田川河畔で撮影すればいい被写体になると考えた。東京は気象学的に見れば割と魅力的なところで晴天日数も全国では多い方である。19日に大分ではダメ、もちろん南九州もダメ、それなら東京で撮影しようと思い前日ソニック、のぞみと乗り継いで東京へ。

装備は制限がありカメラ、三脚、400ミリは絶対必要なので最低これだけは持つことにした。東京は学生時代4年間過ごした街であるが、現在の東京は私が居たころとは違う。午後4頃東京駅に到着。そのまま山手線に乗り換え上野駅へ。上野駅から階段を上り下りしながら地下鉄銀座線で浅草へ。やっとホテル到着だ。しばらくやすんで9階にある浴場へ行くと隣にたたみ4畳敷きくらいのベランダがある。ここは日食撮影に良さそうだ。

ただ残念なことにスカイツリーはアサヒビル本社ビルが邪魔して半分から上しか見えないが金環日食を撮影するには良さそうだ。ベンチもあり三脚を持ってくるとベランダに置くにはぴったりだ。しかし前日であるが東京は曇っている。これで太陽が見えるのだろうか。私は大分から東京へ天体観測旅行という訳だ。

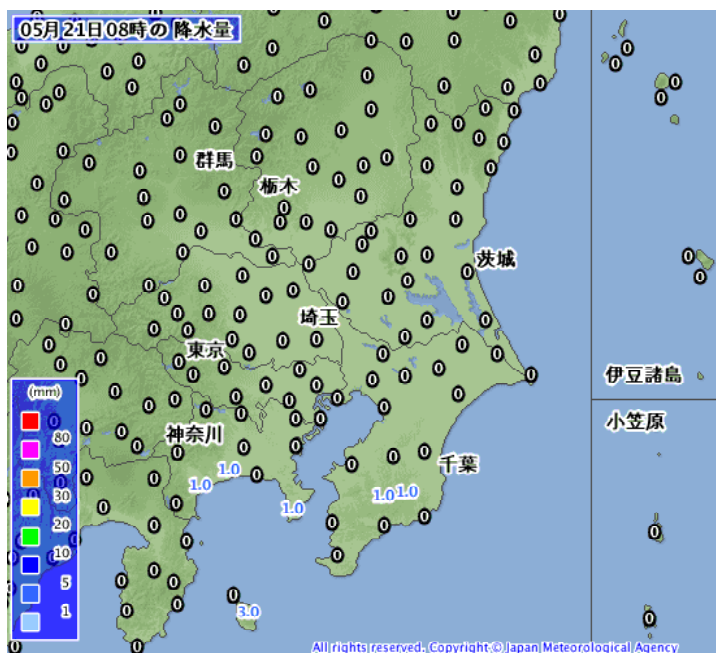
浅草は祭りの様で人が多かった。御輿もでたようである。

前にある吾妻橋のたもとに行ってみるとスカイツリーの全体が見える様になった。

ホテルのレストランで明日の成功を祈って乾杯だ。もちろん一人で。

緊張していたのか、夜中に何度も目が覚めた。

東京でも見られなかったらという不安もあった。



金環日食当時の関東の降水量を示す。関東南部では雨が降っている所がある。

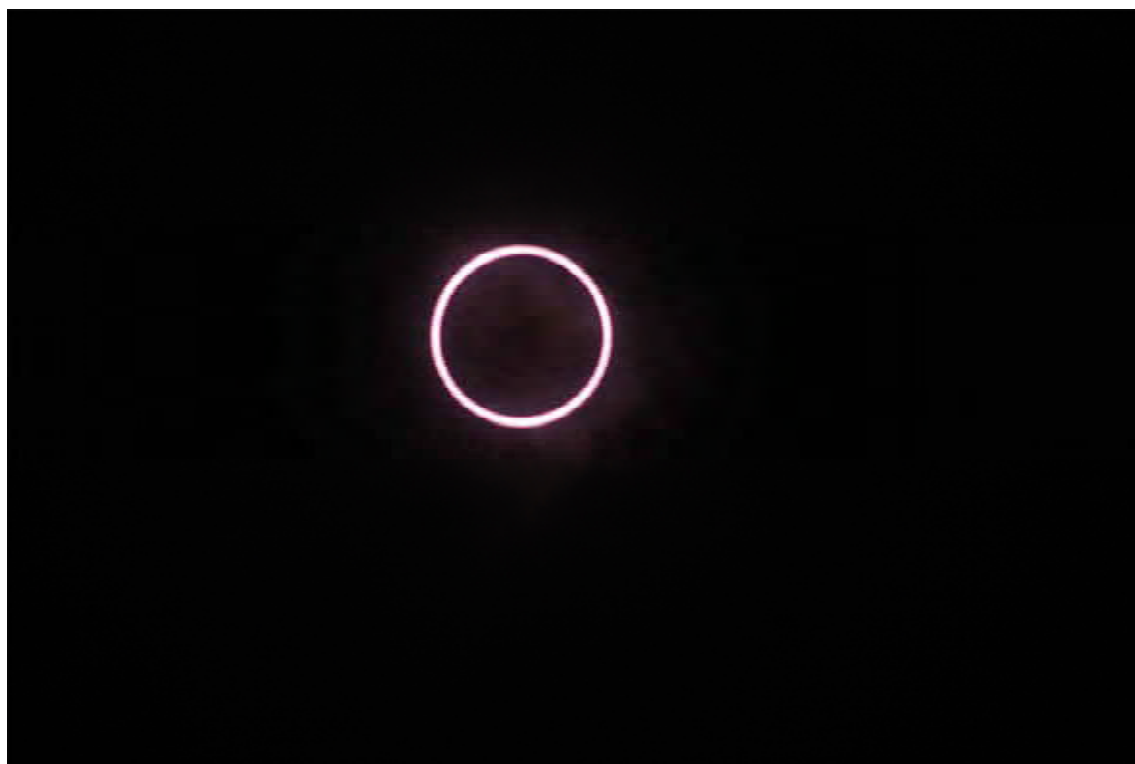
北部ほど天気は良く、群馬県ほど晴れているようだ。

朝午前5時に起床してベランダへ行ってみると雲が厚いが空の方向によっては晴れている所もある。見られるかも知れないと思いベランダで三脚を組み、400ミリの望遠レンズを三脚に載せ撮影準備完了。

雲に太陽は隠れたり見えたりしてヤキモキしたが日食は始まった。

そして7時34分頃、月が太陽のど真ん中に入り金環となった。

隅田川河畔の大勢の観客から歓声の声。とうとう見る事が出来た。金環が終わると直ちに撮影機材を片付け帰途についた。隅田川の遊覧船も停止していた。



ニコンD80 5月21日AM7:38 1/200 ED400ミリ望遠(600ミリ相当) f5.6をF8に絞る ISO100相当東京都台東区 隅田川河畔にて

スカイツリーの眺め

ここで金環になった。スカイツリーの真上だ。



墨田区役所 スカイツリーの上半分が見える
アサヒビール本社ビル（俗にうんこビルという）

薄い雲が多い。

果たせるかな翌日、東京が雨、大分は抜けるような快晴だった。天気とはこんなものだ。金星太陽面通過の日の天気も心配。それにしても何でこんな天気の悪い時期に起こるのか。



隅田川河畔に押し掛けた日食見物者